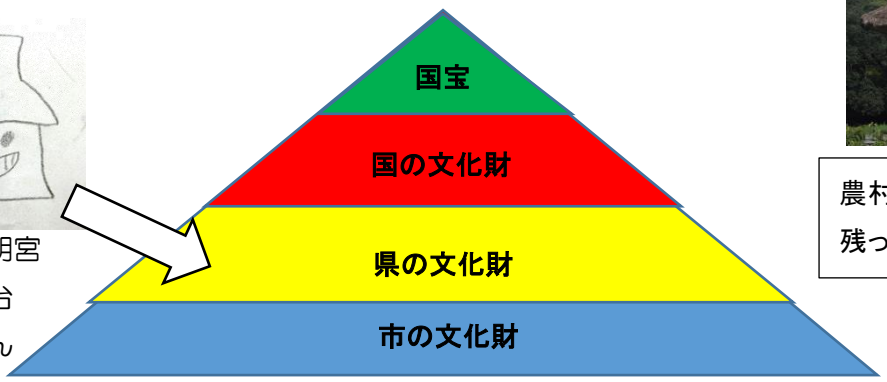
形埜ガイドブック
大川神明宮農村舞台

貴重な建物が形埜に！

　形埜にある大川神明宮農村舞台は「有形民俗文化財」です。有形民俗文化財はこのピラミッドの上から3つ目のランクです。

農村舞台は現在数えるほどしか残っていない貴重なものです。

大川神明宮
農村舞台
神台くん



昔のすがた

工事前の屋根の様子

　農村舞台は明治１５年５月２５日に造られました。造られて１４０年が経ちました。
　農村舞台では、村の娯楽（ごらく）のために、歌舞伎（かぶき）や人形浄瑠璃（じょうるり）が演じられていました。歌舞伎は役者さんを招いたり、地域の人が演じたりしたそうです。現在では、テレビやラジオが普及したため、農村舞台を使うことがなくなってきました。でも、私たちはすてきなこの農村舞台を残していきたいと思います。

農村舞台の仕組み

舞台床下の様子

　大川神明宮農村舞台は、舞台が回る仕組みになっています。直径6mの円形の板に、22個の木車のついた皿回し式です。回転する丸い板の下の4か所に腕木が取り付けてあり、床下で操作します。これは、芝居の場面転換をするためのものです。「次はどんな場面になるのかな」とわくわくしながら楽しめると思いました。
　舞台の地下のことを奈落と言い、そこも見学させてもらえました。回す人がここで待機していて、必要なときに力を入れて回したそうです。

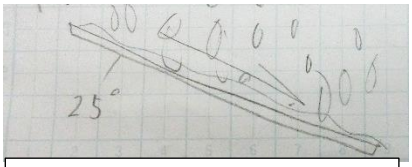
かやぶき屋根って何だろう

屋根の工事の様子

　そもそも、「かや」とは植物の名前ではなく、アシ、ヨシ、ススキなどの総称です。農村舞台のかやぶき屋根は、80％がススキだそうです。

　平成30年10月から、かやぶき屋根の工事が始まりました。舞台の周りに足場を組み、2人の職人さんが作業をしていました。人数が多ければ、それだけ早く工事が終わりますが、息を合わせて丁寧に仕事をしたいという職人さんの思いから、こだわりを感じました。

　屋根は古いかやをまぜて再利用していました。かやの先端はぼろぼろでしたが、中は新品のものとあまり変わりませんでした。再利用することで材料をたくさん集めなくてすむそうです。かやぶき屋根の作り方は、束ねたかやを竹で押さえていきます。シンプルな作りになっていると思いました。



水がかやの表面を流れる図

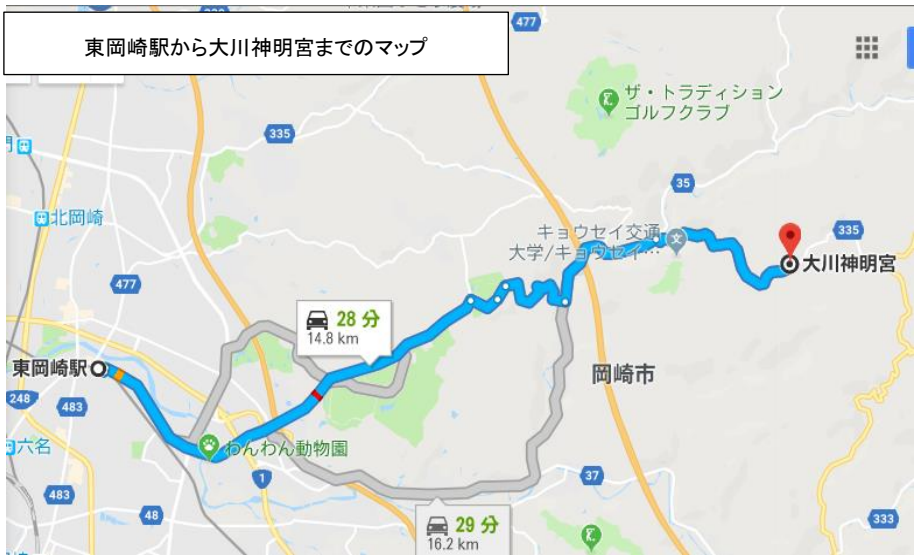
　かやぶき屋根はかやを束ねただけですが、雨もりをしません。その理由は、たくさんの棒状のかやが25度くらいの角度で下がっているからです。上から水が落ちてくると、表面を伝って下に流れます。これを導水効果と言うそうです。ところが、平らにすると水がしみこんで雨もりをしてしまうそうです。よく考えられているなと思いました。工事中、地域の人が当番で掃除をしたり、様子を見に行ったりしていたそうです。地域の人たちが舞台を大切にしていることが分かりました。

　現在、工事が完了して屋根が新しくなっているので、ぜひご覧ください。

舞台だけでなく…

　農村舞台のそばには神社があります。太陽の神である「天照大神」がまつられています。ぜひ、神社にもお参りしてみてください。

大川神明宮農村舞台の基本情報	
所在地	岡崎市大高味町字向田
料金	拝観料無料
アクセス	名鉄東岡崎から 15km 自動車で約 30 分

大川神明宮の様子

農村舞台と6年生